

# 山 口 大

## ヨウ化物イオン捕獲に成果

### 中山教授 福島原発事故処理へ期待

山口大（丸本卓哉学長）は18日、中山雅晴大学院理工学研究所教授らの研究グループが「ヨウ化物イオンを特異的に捕獲できる薄膜材料」を確認した、と発表した。福島第一原発の事故で大量に放出・拡散した放射性物質のうち、イオン化した放射性ヨウ素（ヨウ化物イオン）を高効率で回収できるという。

薄膜材料は、カチオン性界面活性剤であるヘキサデシルピリジニウムを、マンガン酸化ウチートで挟んだ積層体で、電極としても活用できる「極めて薄いフィルム」実験では、マンガン酸化ウチート250ミクロン超のヨウ化物イオンを捕獲している。「大きな成果」が得

られたという。放射性ヨウ素のうち、半減期が1570万年と長いヨウ素129は、水に溶けやすいためヨウ化物イオンとなり、長期にわたる海水や地下水汚染と生態系への影響が心配されている。既存の汚染水浄化装置は、ヨウ化物イオンなどの陰イオンの捕獲に適していないため、今回の薄膜材料の活用が期待が寄せられている。（渡辺）

## 解散で市に木

### 宇部ベンチャークラブ

国際ソロプチミスト宇部（石井美智子会長）がスポンサーする宇部ベンチャークラブ（砂村尚代会長）は18日、解散に伴って記念植樹としてナンキンハゼ2本とミモザ5本、ベンチ（約40万円相当）を寄贈した。来年度の良好な時期に常盤公園のしよ

うぶ宛近くに植えてもらえるよう依頼した。同クラブは1970年に発足。当時は27人いたが、徐々に会員が減り、現在は4人。昨年9月に中西国大会の引き受け、東国原英主さんのチャリティー講演会を開いたが、その後は活動が厳しい状況になり、6月30日付で解散を決めた。

砂村会長、事務局の佐伯みゆきさんが目録を届けた。受け取った久保田盾子市長は「解散は残念だが、一定の成果を上げられての

# 県民活動パワーアップ賞

## DV被害者支援に貢献

### ポートネットが受賞



小柴代表（県庁で）

ボランティアや地域活性化など優れた活動に取り組み個人と団体に贈られる第14回「やまぐち県民活動パワーアップ賞」の表彰式が18日、県庁で行われた。配偶者などから振るわれる暴力、ドメスティックバイオレンス（DV）の被害者支

内では唯一、民間の緊急一時保護施設を運営している。表彰式では、藤部秀則副知事が表彰状と副賞の20万円の目録を手渡し「県民活動は、未

来は唯一、民間の緊急一時保護施設を運営する力となる。地域のリーダーとして人財の育成に協力をお願いします」と激励した。小柴代表は「光栄です。うれしく思います。活

動資金不足が課題ですが、副賞をいただけるのが大変ありがたい。啓発用リーフレットの作成に活用させていただきます」と述べた。（佐野）



## フットバレーが留学生と交流

の交流会は17日、アクトビレッジおのであり、35人がそば打ちやスポーツを通じて触れ合いを深めた。同会が毎年実施している国際交流事業。山口大工学部で学ぶ中国、インドネシアからの留学生とその家族、